



10578

10579

UH-A7CII SONY *a7CII/ a7CR*

for SONY *a7CII / a7CR*

Fisheye

目次

安全にお使いいただくために	03
事前チェック	04
仕様	05
各部名称	06
各部名称	07
取扱方法	
ハウジングを開ける	11
マルチコントロールデバイスの充電	11
カメラの準備	12
カメラを装填する	13
マルチコントロールデバイスの準備	14
ハウジングを閉じる	15
レンズポートの着脱方法	15
バキュームリークセンサーの操作	16
ダイビング後の開け方	18
ストロボについて	19
インジケータの表示	20
浸水テスト	
ご使用前に	21
ダイビング前のチェック	21
メンテナンス	
Oリングのメンテナンス	22
使用後のメンテナンス	23

*取扱説明書について

- 本書の内容は、予告なく変更することがあります。
- 本書の内容について、誤記、記載漏れ、印刷ミス、不明な点などがありましたら、弊社もしくはお近くの販売店までご連絡をお願いいたします。
- 本書の一部もしくは全部をいかなる方法でも、個人利用を除いて、無断で複写・複製することはできません。

安全にお使いいただくために

- この説明書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
- 誤った使い方をされると、カメラ、ハウジングの故障や水没の原因となり、修理不能となるおそれがあります。
- ご使用の際は、必ず事前の点検、テストを実施してください。
- カメラの水没、故障、データの消失による補償や、分解、改造、修理に伴う事故などに関し、弊社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。また、使用時の人身、物損事故に関しての補償はいたしかねます。

安全上の注意

以下に表示した注意事項は、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- 危険** 取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容。
- 警告** 取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
- 注意** 取扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

危険

- 本製品の改造・分解は絶対におやめください。水没や発熱、発火の原因になります。
- 本製品を水中で使用する際は、水深や潜水時間に十分ご注意ください。水中撮影に没頭しすぎると重大な潜水事故につながる危険性があります。

警告

- 本製品を乳児、幼児、小さなお子様など、本製品の安全上の注意について理解できない人の手の届く場所に保管しないでください。落下によるケガ、Oリングによる窒息、小さな部品を飲み込むなど、事故の原因となります。
- 本製品を長期間使用されない時はカメラ本体を取り出してください。カメラ本体の電池のトラブルなどによる発火のおそれがあります。
- 本製品は樹脂製素材を使用しております。強い衝撃や圧迫によって破損した場合、破片や割れた部分によるケガをするおそれがあります。
- 本製品付属のOリングやグリスなどは食べられません。

! 注意

- 本製品は 60m の水深まで耐えられるように設計されています。それ以上深い場所で使用されたり、浅い深度においても衝撃や圧迫を加えると、破損や浸水のおそれがあります。
- 浸水や故障などの事故を防ぐために、本製品の使用前には必ず点検とメンテナンスを実施してください。
- 気温が異常に高くなる、あるいは低くなる場所、極端に大きな温度変化がある場所などに本製品を置いたり、保管したりしないでください。部品が劣化し、本体の破損や防水機能を損うおそれがあります。
- 砂や塵、ほこりなどが多い場所でハウジングを開閉すると、異物が付着することで防水性能が損なわれ、浸水の原因となります。
- 飛行機で移動する場合などは、本体の O リングを外しておくことをおすすめします。気圧の変化でハウジングが開かなくなったり、その状態で無理に開こうとすることで本体の破損やケガをするおそれがあります。
- アルコールやベンジン、シンナーなどの有機系溶剤は、破損や変形の原因となりますので、絶対に使用しないでください。
- 万一、浸水が発生した場合は、すぐに使用を中止してください。また、浸水している場合、ハウジング内部の圧力が高くなっていることがあります。ハウジングを開ける際、水が噴き出したり、本体が跳ねたりするおそれがありますので、十分にご注意ください。
- 本製品は樹脂製素材を使用しています。使用中に岩などにぶつけて強い衝撃を与えると破損するおそれがあります。
- ダイビングのエントリー方法によっては製品に衝撃を与え、浸水や破損の原因となります。とくにボートダイブではエントリー後に船上から手渡してもらうなど、エントリー時の取り扱いには十分注意してください。
- ハウジングを開閉する際、ほこりやゴミの付着に注意してください。O リングの破損から浸水が発生するおそれがあります。
- ご使用前には必ず O リングのメンテナンスを実施してください。とくにグリスアップを怠ると、O リングのねじれや劣化につながり、浸水するおそれがあります。
- ハウジングの内部をよく乾燥させた状態でご使用ください。水分が残っていると結露が発生するおそれがあります。
- ご使用前に直射日光の当たる場所に放置しないでください。ハウジング内部の温度が高くなった状態で水に浸けると、急激な温度変化により結露が発生するおそれがあります。

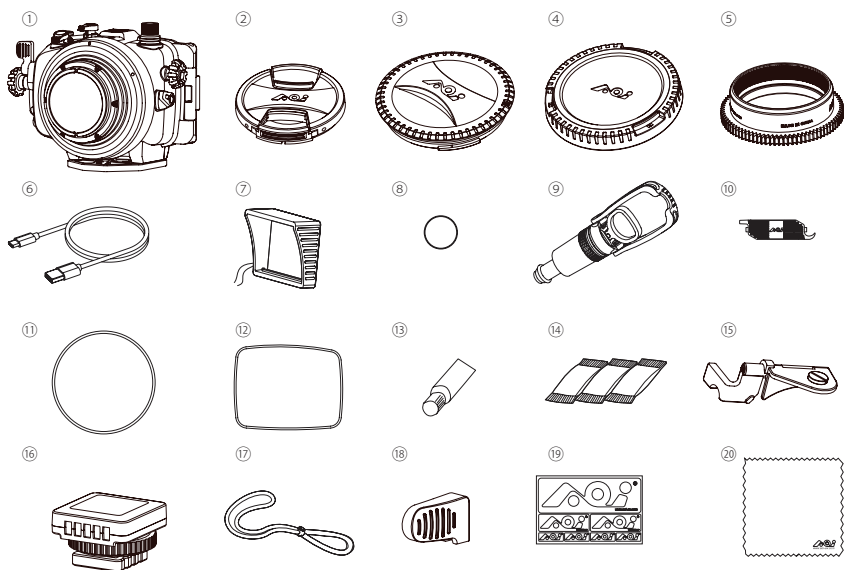
事前チェック

- この取扱説明書は、お客様がすでに「SONY α 7CII / α 7CR」の使用法を習熟されていることを前提に作成されています。もし、まだカメラ本体の使用に不慣れであれば、本製品の使用前にカメラ本体の説明書を熟読いただきますようお願いいたします。
- 本製品は出荷前に耐圧検査を実施していますが、輸送時に何らかのトラブルが発生する場合があります。水中で使用する前に、カメラを装填しない状態での浸水テストを強くおすすめいたします。
- ご使用前に付属品がすべてそろっているかご確認ください。

仕様

品番	UH-A7CII	
品名	AOI-UH-A7CII SONY α 7CII / α 7CR	
カラー	AOI-UH-A7CII-WHT SONY α 7CII / α 7CR White	AOI-UH-A7CII-BLK SONY α 7CII / α 7CR Black
対応機種	SONY α 7CII / α 7CR	
材質	ポリカーボネート+ガラスファイバー	
耐圧水深	60m	
ポートシステム	AXポートシステム	
マルチコントロールデバイス	フラッシュコントロール	a) SONY TTL、b) Auto HSS、c) マニュアル
	防水機能	バキュームシステム、ウエットセンサー
	バッテリー	内蔵充電式リチウムポリマーバッテリー (3.7V 110mAh)
	充電	USB充電DC5V、0.5A (ACアダプター別売) / 充電時間 1.5時間
	駆動時間	約2日間 (1時間 / 1DIVE、3ダイブ / 1日の目安)
サイズ	W197 x H153 x D139mm	
重量	陸上：1385g (ボディキャップ含む)	
	水中：-130g (SONY α 7CII / α 7CR、バッテリー、FE 28-60mm F4-5.6、LG-SEL-2860 レンズギア、FLP-103 AXマウントフラットポート26、HSC-03 ホットシューコネクター含む)	

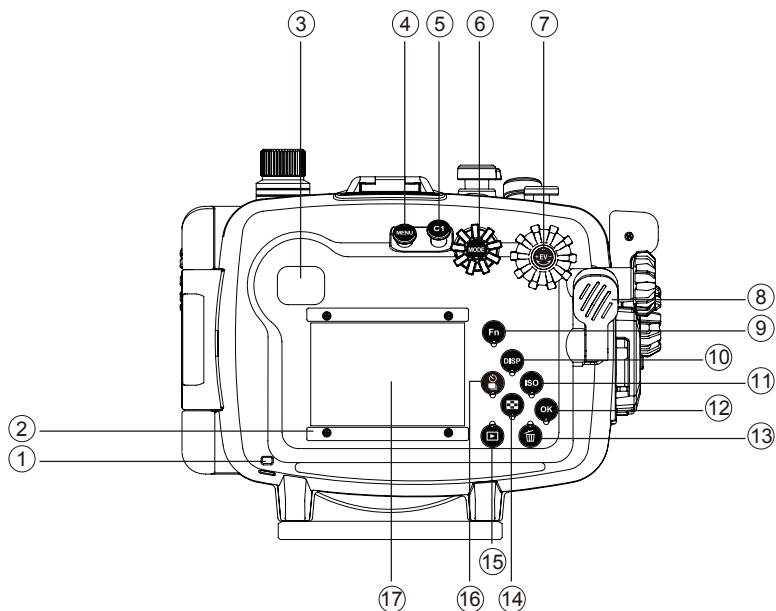
付属品



- ① UH-A7CIIハウジング、
FLP-103 AX マウントフラットポート 26 × 1
- ② LFC-01 フロントキャップ M67 × 1
- ③ BC-101 ボディキャップ × 1
- ④ LRC-101 AX マウントポートリアキャップ × 1
- ⑤ LG-SEL-2860 レンズギア × 1
- ⑥ USB Type-C 充電ケーブル × 1
- ⑦ LCDH-01 LCD フード × 1
- ⑧ SRW-01 バキューム/バルブ用 O リング × 1
- ⑨ VP-01 バキュームポンプ × 1
- ⑩ O リングリムーバー × 1

- ⑪ SOR-08 スペア O リング × 1
- ⑫ SSR-06 スペアセカンドシールリング × 1
- ⑬ Sigr-5 シリコンリング × 1
- ⑭ Sige-3 シリカゲル × 1
- ⑮ レンズリリースアタッチメント × 1
- ⑯ HSC-03 ホットシューコネクター × 1
- ⑰ LYD-01 ランヤード × 1
- ⑱ 延長シャッターレバー × 1
- ⑲ ステッカー
- ⑳ マイクロファイバークロス × 1

各部名称



① LCD モニターフードストラップ通し穴

② LCD モニターフードレール

③ ビューファインダーウィンドウ

④ MENU ボタン

⑤ C1 ボタン

⑥ モードダイヤル

⑦ EV コントロールダイヤル

⑧ AF-ON レバー

⑨ Fn ボタン

⑩ ↑ / ディスプレイボタン

⑪ → / ISO ボタン

⑫ OK ボタン

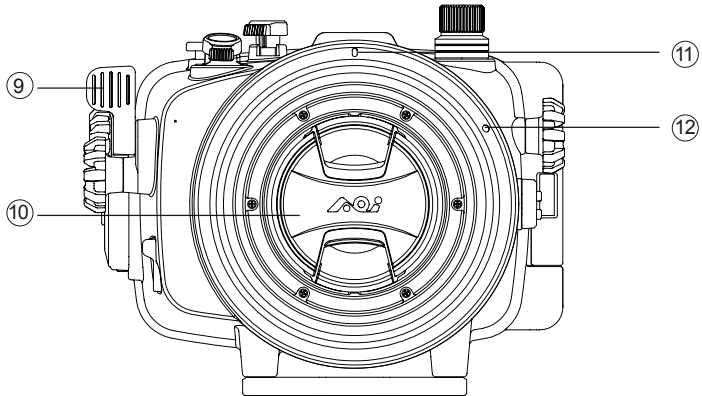
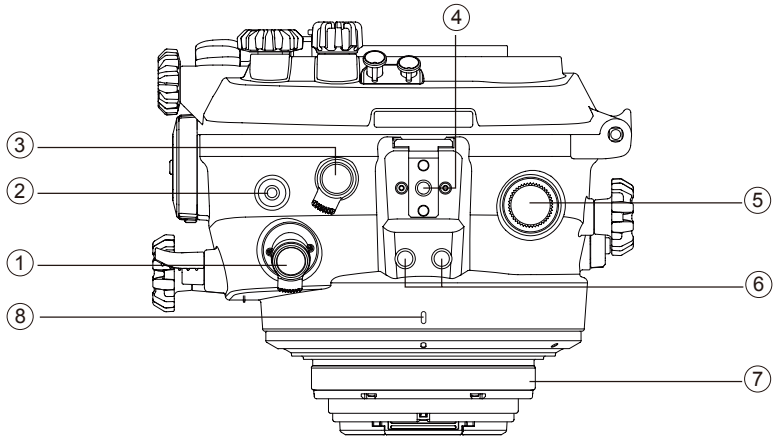
⑬ 削除ボタン

⑭ ↓ / イメージインデックスボタン

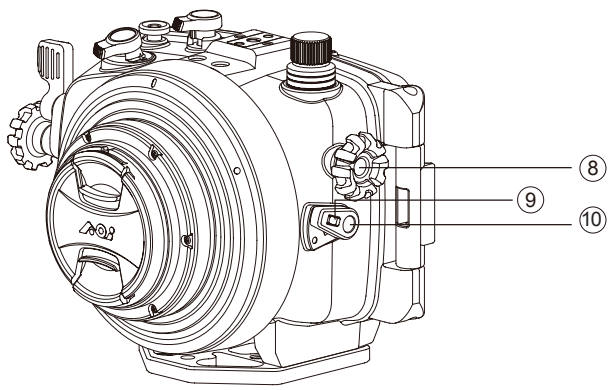
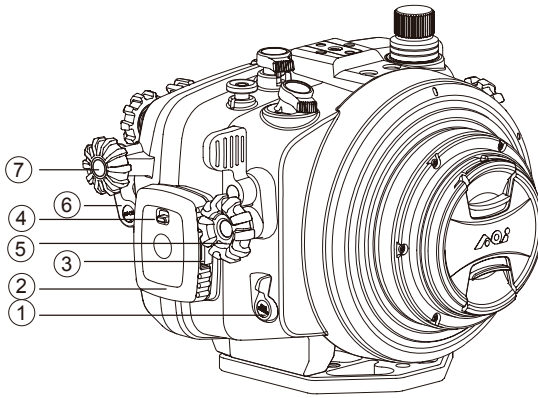
⑮ 再生ボタン

⑯ ← / セルフタイマー / 連射ボタン

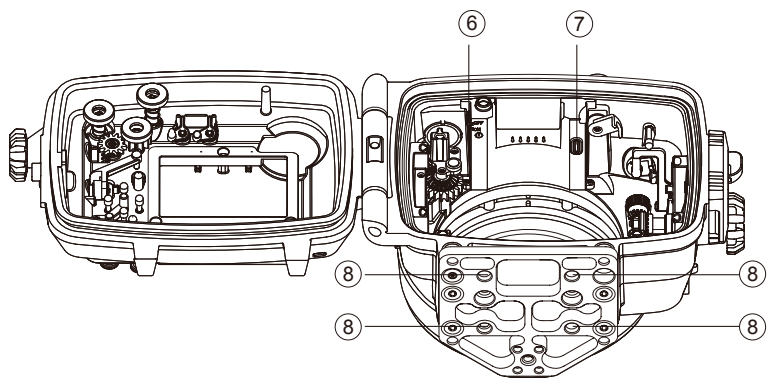
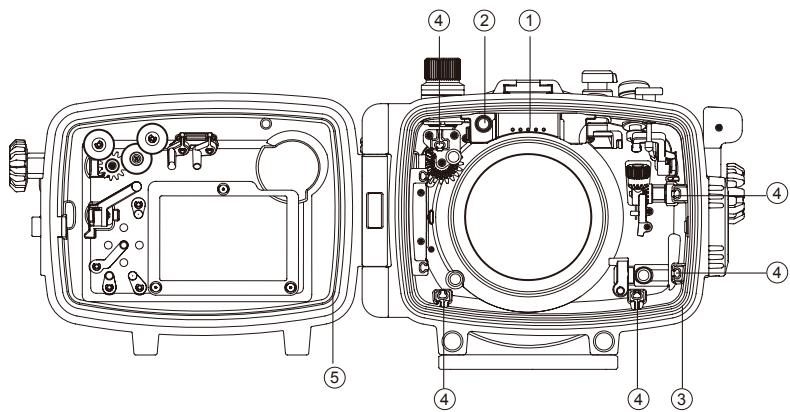
⑰ LCD モニターウィンドウ



- | | |
|---------------------|----------------------------|
| ①電源レバー | ⑥光ファイバーケーブルソケット |
| ②Movie ボタン | ⑦FLP-103 AX マウントフラットポート 26 |
| ③静止画／動画／S&Q ダイアルレバー | ⑧ポート指標 |
| ④ボールベース取付穴 | ⑨シャッターレバー |
| ⑤バキュームバルブ | ⑩LFC-01 フロントキャップ M67 |
| | ⑪ () 指標 |
| | ⑫ (○) 指標 |



- | | |
|---------------|-----------------|
| ① レンズリリースレバー | ⑥ AF-ON レバー |
| ② ローターバックル | ⑦ リアダイヤル |
| ③ ローターバックルロック | ⑧ フォーカス/ズームダイヤル |
| ④ セキュリティロック | ⑨ ポートリリースレバーロック |
| ⑤ フロントダイヤル | ⑩ ポートリリースレバー |



- ①マルチコントロールデバイス
- ②インジケーター
- ③セカンダリーOリング
- ④カメラポジションバンパー
- ⑤メインOリング
- ⑥マルチコントロールデバイス ON/OFF スイッチ
- ⑦ USB Type C ポート
- ⑧三脚ネジ穴

取扱方法

ハウジングの準備

●ハウジングを開ける

1. ロータリーバックルのセキュリティロックを図の矢印の方向にスライドさせて解除し(図 1)、ロータリーバックルロックを押しながら(図 2-a)、時計回りに回転させます(図 2-b)。リアケースが開いて、ロータリーバックルから完全に外れるまで回転させます。

図 1

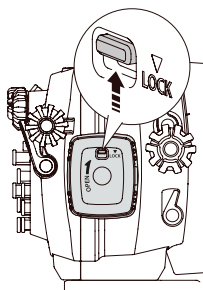
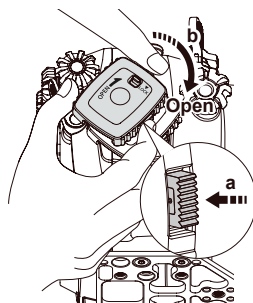


図 2

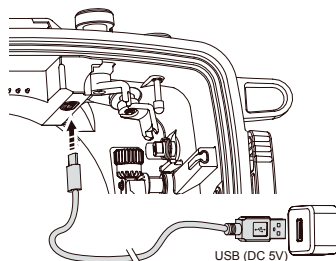


●マルチコントロールデバイスの充電

マルチコントロールデバイスは、外部ストロボやバキュームシステムをコントロールするユニットです。

1. 付属の USB Type-C 充電ケーブルを使用して、マルチコントロールデバイスを充電します。USB Type-C 充電ケーブルをマルチコントロールデバイスの USB Type C ポートに接続して、もう一方の端を USB 充電器に接続します(図 3)。充電が開始するとインジケータはゆっくり緑色点滅します。充電が完了するとインジケータは緑色点灯になります。完全に充電するには、約 1.5 時間かかります。
2. 1 回の充電で稼働時間の目安は、約 2 日間です(1 日 3 ダイブ、1 ダイブあたり約 1 時間)。
※急速充電規格 (PD) には対応していません。

図 3



インジケータ表示	充電状態	対応方法
緑色点滅 (ゆっくり)	充電中	充電を続ける
緑色点灯	充電完了	USB 充電器から取り外して充電を停止する

■カメラの準備

1. 使用するレンズに、ズームギアまたはフォーカスギアを取り付けます (図 1)
2. ギアが装着されたレンズを、カメラに取り付けます (図 2)。
3. カメラにレンズリリースアタッチメントを取り付けます。レンズリリースアタッチメントの凸部をカメラ底部の凹部に差し込みながら、レンズリリースアタッチメントの固定ネジをカメラの三脚ネジ穴にしっかりねじ込みます (図 3)。
4. カメラのホットシューに、HSC-03 ホットシューコネクターを取り付けます (図 4)。

図 1

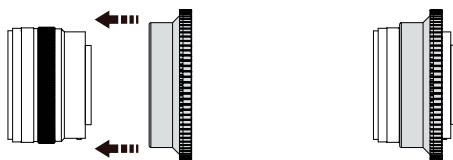


図 2

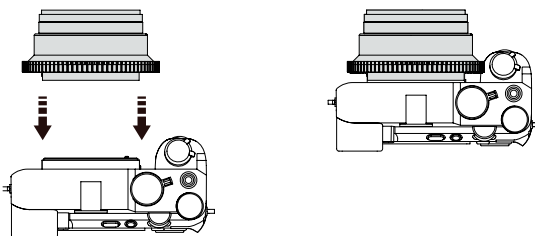


図 3

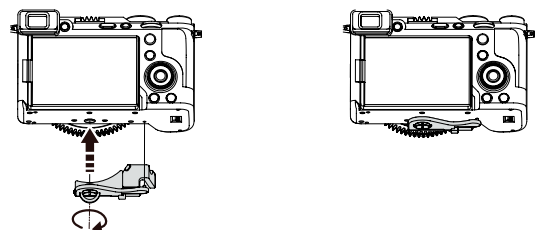
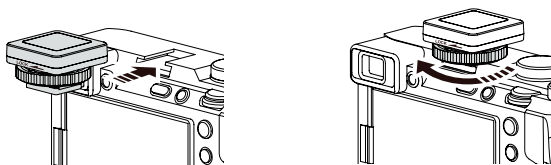


図 4



■カメラを装填する

1. ハウジングの電源レバーと静止画／動画／S&Q ダイヤルレバーを持ち上げます (図 1)。
2. カメラをハウジングにゆっくり装填します (図 2)。
3. 装填する前に、カメラのストラップ吊り環を上側に持ち上げた状態にします(図 3)。装填する際は、カメラを 5 か所のカメラポジションバンパーの内側に収めます。
4. カメラを装填したら、ハウジングの電源レバーと静止画／動画／S&Q ダイヤルレバーを、カメラのレバーにかみ合わせるように押し込みます (図 4)。

図 1

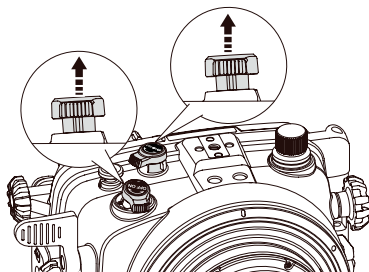


図 2

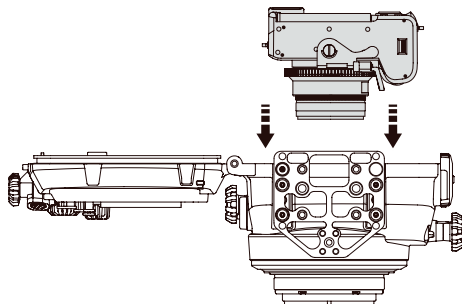


図 3

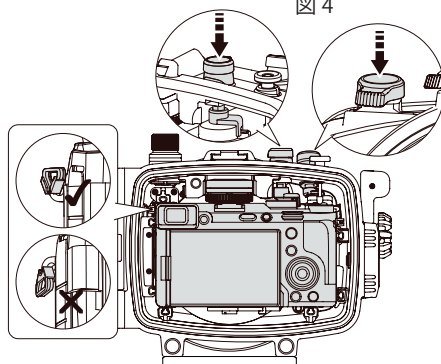
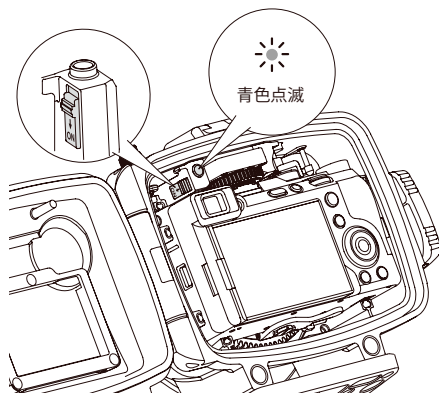


図 4

■マルチコントロールデバイスの準備

1. マルチコントロールデバイス ON/OFF スイッチを前側に押しします。インジケーターが青色点滅して、マルチコントロールデバイスの電源が ON になります (図 1)。

図 1



スリープモード

マルチコントロールデバイスの電源が ON になった後に、カメラが 10 分以上操作されない場合はスリープモードになりインジケーターが 10 秒間に 1 回点滅します。(バキューム操作前は青色、バキューム操作後は緑色) カメラを操作すると、スリープモードが解除されます。

■ハウジングを閉じる

1. カメラが正しくセットされているか確認し、OリングとOリング接触面にゴミなどの付着物がないか確認します。
2. ハウジングのリアケースを閉じ、「カチッ」と音がするまでロータリーバックルを反時計回りに回して(図1)、セキュリティロックを「LOCK」位置に切り替えます(図2)。
3. カメラの電源を入れ、すべてのスイッチ、ダイヤル、ギアが正しく機能することを確認します。

図1

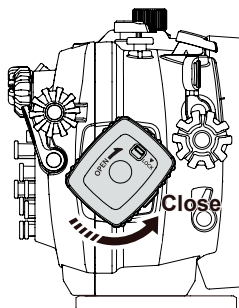
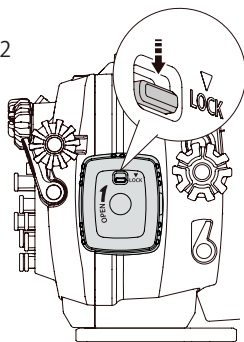


図2



注意

ハウジングを閉じた状態で、Oリングの挟み込みなどがいないか、必ず全周を見わたして確認してください。

■レンズポートの着脱方法

1. ポートを外す場合は、ポートリリースレバーロックを前側にスライドしながら(図1-a)、ポートリリースレバーを下側に下げます(図1-b)。ポートを反時計方向に回します(図1-c)。
2. ポートの(O) 指標とハウジングのポート指標が合う位置で、ポートを前側に引き抜きます(図2)。
3. ポートを装着する場合は、ハウジングのポート指標にポートの(O) 指標を合わせて押し込み、ポートの(|) 指標がハウジングのポート指標に合うまで時計方向に回します。

図1

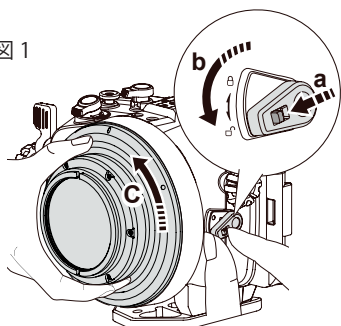
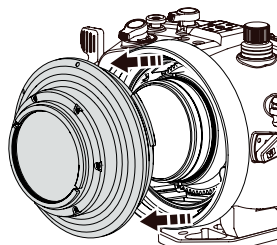


図2



■バキュームリークセンサーの操作

1. マルチコントロールデバイスの電源を ON にすると、インジケータが青色の点滅になります。挟み込みに注意して、リアケースを閉じます。10 分以上操作しない場合スリープモードになり、10 秒間に 1 回青色点滅します。
2. バキュームバルブの保護キャップを外し (図 1-1)、バキュームポンプをバキュームバルブのネジ部までしっかり押し込みます。
3. ポンプのハンドルをゆっくりと繰り返し引いていくと、インジケータの色が変化します (図 1-2)。

黄色点滅：エア吸い出し中。

図 1-1

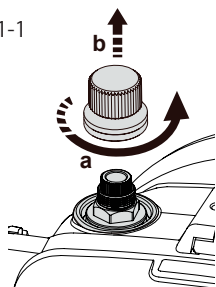
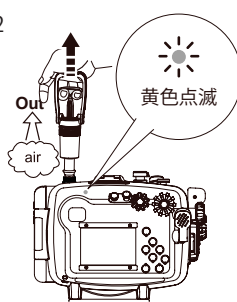


図 1-2



黄色点灯：エア吸い出し完了 (図 2-1)。ポンピングを停止すると、真空状態の分析が自動的に開始されます。バキュームポンプをバキュームバルブから慎重に外し、保護キャップをバキュームバルブにしっかりねじ込みます (図 2-2)。ハウジングを激しく動かしたり、太陽の下に放置しないでください。分析は約 3 分ほどです。分析結果は、インジケータの表示色で通知されます。

図 2-1

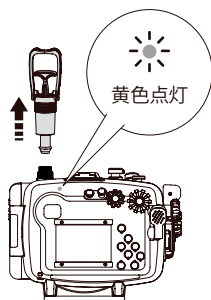
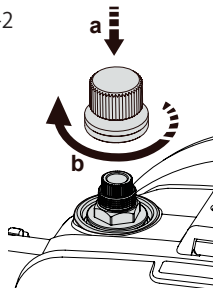


図 2-2



黄色と赤色の交互点滅：黄色と赤色の交互点滅：真空レベルが適正值を上回っています。ポンピングを停止し、赤色の真空キャップを反時計回りに回し、インジケーターが黄色点灯になるまで空気を給気します(図3-1)。空気の給気が多すぎると、インジケーターが再び黄色点滅に戻ります。その場合は、黄色点灯になるまで、バキュームポンプでもう1度排気します(図3-2)。

図3-1

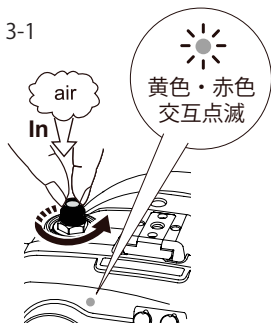
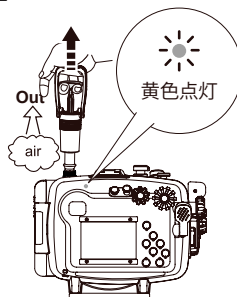


図3-2



4. 3分後、インジケーターの表示色が変化し分析結果を知らせます。

緑色の点滅：正常に完了しており水中で使用可能です。(図4)。

赤色の点滅：異常ありです。ハウジングの防水性やOリングに問題がないか密閉性の確認が必要です(図5)。

図4

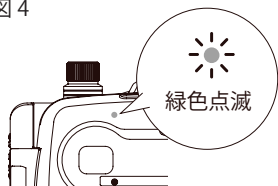
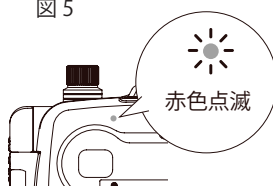
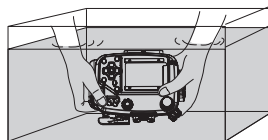


図5



- 分析が正常に完了したら、水漏れ最終チェックを行います。水を張った水槽にハウジングを沈め、すべてのボタン、スイッチ、ダイヤルを動かして適切に防水されていることを確認します。このとき、ハウジング内部に水滴がなければ、内部は完全に密閉されています。ハウジング内部に浸水があった場合は水滴がハウジングの最下部にあるウエットセンサーによって検出され、インジケーターの赤色点灯とブザー音でお知らせします。
- ダイビング中は真空状態でご使用ください。陰圧状態をキープしたままセンサーが圧力変化がないか随時解析を行なっております。



- 注意** 約3分の分析テスト結果がOK（緑色点滅）となっても、ケバや異物などの付着、挟み込みあった場合には浸水が発生する可能性があります。
真空分析結果がOK（緑色点滅）後に30分から1時間程度、陸上で放置し、ハウジングの内圧変化が生じて真空分析結果がNG（赤色点滅）にならないか、確認することを推奨します。

■ダイビング後の開け方

1. バキュームバルブの保護キャップを外し、赤色のバルブつまみを半時計回りに回し、ハウジング内部の気圧を陰圧状態から通常気圧に戻してください。（バルブ弁が開放しブシューと空気が入る音がします。）
2. 保護キャップをハウジングのバキュームバルブに元どおりに取り付けます。
3. ロータリーバックルを回転させてハウジングのリアカバーを開きます。

- 注意** 陰圧状態（真空状態）のまま、リアケースを開けようとするるとロータリーバックルが破損する恐れがあります。
カメラの取り出し等でケースを開ける際は、必ずハウジング内の気圧が陰圧状態（真空状態）になっていないかバキュームバルブのつまみを反時計回りに回して、通常気圧に戻っていることを確認してください

■インジケータ表示

インジケータ表示	状態	対応方法
青色点滅	真空分析の準備が完了	排気を始める
黄色点滅	適正值以下の真空	ポンピングを続ける
黄色点灯	真空分析進行中	分析のため3分待つ
緑色点滅	真空分析テスト OK	水中で使用可能
黄色と赤色に交互点滅	適正值を超える真空	給気つまみを反時計方向に回し黄色点灯になるまで吸気する
赤色点滅	真空分析テスト NG	ケバや異物などの付着、挟み込みなどが ないか、セッティングを確認
赤色点灯とブザー音	ウェットセンサーが水滴や水分を検出	水漏れ箇所がないかハウジング検査
青色または緑色が点滅 (10秒間に1回)	スリープモード	カメラの電源を ON すると解除
緑色点滅（ゆっくり）	バッテリー充電中	充電完了まで待つ
緑色点灯	バッテリー充電完了	USB ケーブルを抜く
赤色ー緑色ー青色点滅	システムエラー	カスタマーサービスへご連絡ください

■ストロボについて

ハウジングには、フラッシュトリガーが組み込まれています。フラッシュトリガー信号（電気信号）カメラのホットシューからホットシューコネクタを介してマルチコントロールデバイスに転送されます。マルチコントロールデバイスは、電気信号を光信号に変換し、光ファイバーケーブル（オプション）に伝送します。外部ストロボは、光ファイバーケーブルの光信号を受信して発光します。

●カメラ本体の設定

使用するストロボにより、下記のカメラ設定を行ってください。

・本製品に対応した AOI ストロボ

TTL 調光、Auto HSS（オートハイスピードシンクロ）、マニュアルの使用が可能です。

TTL 調光、Auto HSS： **MENU** ⇒ **露出/色** ⇒ **フラッシュ** ⇒ **ワイヤレスフラッシュ** ⇒ 切

マニュアル： **MENU** ⇒ **露出/色** ⇒ **フラッシュ** ⇒ **ワイヤレスフラッシュ** ⇒ 入

・それ以外のストロボ

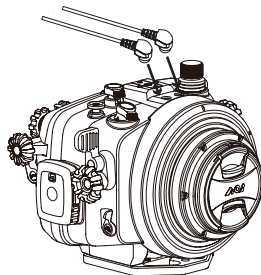
マニュアル発光で使用します。

マニュアル： **MENU** ⇒ **露出/色** ⇒ **フラッシュ** ⇒ **ワイヤレスフラッシュ** ⇒ 入

●ストロボの接続

ハウジングには、SEA&SEA タイプの光ファイバーソケットが2基装備されています。

光ファイバーケーブル（オプション）の一方の端をハウジングの光ファイバーケーブルソケット挿入し、もう一方の端を外部ストロボの光ファイバーケーブルソケットに挿入します。



▲ 注意

光ファイバーケーブルソケットは、使用後水で洗い流し、自然乾燥させてください。
光ファイバーケーブルは推奨製品をご使用ください。

AOI-UH-A7CII 推奨光ファイバーケーブル

#50135 SEA&SEA 光ファイバーケーブル II S/2 コネクター

#50128 SEA&SEA 光ファイバーケーブル II M/2 コネクター

#50133 SEA&SEA 光ファイバーケーブル II L/2 コネクター

（詳細は Web サイトをご覧ください）

■ 延長シャッターレバー

シャッターレバーを付属の延長シャッターレバーに交換することで、グリップを握りながらシャッターレバーを押すことができます。

● 交換方法

1. シャッターレバーの裏側の固定ビスを、(+)の精密ドライバーで緩めて外します。
2. シャッターレバーを上側へ抜き取ります(図1)
3. 延長シャッターレバーに付いているビス(予備)を外してから、下側へしっかり差し込みます。
4. 延長シャッターレバーに固定ビスをねじ込み、しっかり締め付けて固定します(図2)。

図1

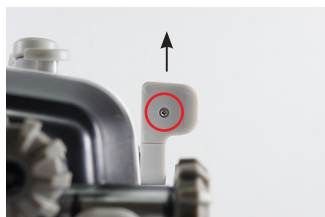
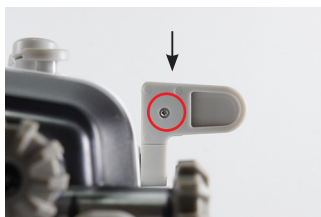


図2



■ 浸水テスト

■ ご使用前に

1. カメラを装填する前に、空の状態のハウジングを実際に使用する深度まで沈めて浸水の有無を確認してください。
 2. ハウジングの浸水事故は、おもに以下のケアレスミスが原因です。
 - Oリングの付け忘れ。
 - Oリングが溝に正しくはまっていない。
 - Oリングにキズ、ひびがある。または変質、変形している。
 - Oリングの溝もしくは接触面に、砂やゴミ、髪の毛などが付着している。
 - Oリング接触面やOリングの溝に傷がある。
 - カメラが正しい位置にセットされていない。
 - ハウジングを閉じる際にストラップや除湿剤などを挟み込んでしまう。
- ※ハウジングに水漏れがある場合、上記の原因を取り除き再度テストを行なってください。

▲ 注意 事前テストは実際に使用する深度での実施が最適です。ただ、その深度を確保するのが難しく、より浅い深度での浸水テストとなっても、必ず実施してください。事前テストを実施したにもかかわらず浸水が確認される場合は、製品の使用を中止し、お買い上げの販売店または弊社カスタマーサービスまでご相談ください。

■ ダイビング前のチェック

ダイビングでご使用になる前に、以下の最終チェックを必ず実施してください。

1. 水を張ったカメラ洗い桶に（なければ水面にて）、ハウジングを水平の状態できゅっくりと水に沈めます。
2. 最初は3秒間水に入れ、ハウジング本体から気泡が上がってこないか確認します。Oリングの付け忘れやストラップなどの挟み込みがあれば、わずか3秒でも浸水します。
3. 同様に30秒/3分とチェックを行います。
4. ハウジング本体から継続的に気泡が上がる場合は使用を中止し、再度Oリングのチェックをしてください。

▲ 注意 ハウジングを持ったままボートや高所からエントリーするなど、ハウジングの一方向に強い水圧がかからないよう注意してください。浸水のリスクが高まります。

メンテナンス

○リングのメンテナンス

1. 付属の○リングリムーバーを、○リングと本体の溝の間に差し込みます。
2. ○リングリムーバーの先端で○リングを引っ掛け、溝から○リングを外します。
3. ○リングと○リング溝に付着した砂、塩、古いグリスを除去します。○リング溝は綿棒などを使うときれいに清掃できます。指の感触や目視でキズやひび割れなどをチェックします。
4. もし、キズやひび割れなどがある場合は、○リングを交換します。
5. 付属のシリコングリスを米粒大ほど指先に取り、3本の指で挟むように○リング全体に均一に塗ります。その際、力を入れて○リングを引っ張らないようにしてください。シリコングリス自体には防水性はありませんが、シリコングリスの量が少ないと○リングが溝の中で部分的にねじれ、浸水の原因となります。
6. ○リングを溝にはめます。その際、○リングがねじれたり、はみ出したりしないように注意してください。
7. ハウジングを閉じる際に、もう一度○リング面と○リング接触面を目視および指でなぞって、ゴミや髪の毛などの付着がないか確認します。

注意

- ○リング面に小さな傷やひび割れなどがある場合、その○リングは絶対に使用せず、すぐに新しい○リングと交換してください。
- ○リング溝、または○リングが当たる接触面にも砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、傷やひびなどがないかしっかり確認してください。
- ○リングや○リング溝、○リング接触面のチェック、グリスアップは、ハウジング開閉時に毎回実施してください。
- 本製品の○リングはシリコンタイプを使用しています。グリスアップは必ず付属の○リンググリスを使用してください。付属のグリス以外を使用すると○リングが膨張し、防水性能を損ないます。

■使用後のメンテナンス

海で使用した後は以下の手順で塩分を洗い流してください。

1. 真水を溜めたカメラ専用の洗い桶や洗面器などにハウジングを浸けます。
2. 各レバーやボタンを真水の中で操作し、塩分を洗い流します。
3. 10～20分間、洗い桶に浸しておきます。
4. 真水から上げたら、弱い流水で洗ってください。強い水流を一定方向から当てると浸水の原因となりますので、絶対におやめください。
5. 水洗い後は、乾いたやわらかい布等で水気をよくふき取ってください。
6. また、必ずご自宅に戻ってからのお手入れも実施してください。後のトラブルにつながるおそれがありますので、現地での塩抜きのみでメンテナンスを終了させないでください。
7. 長期間使用しない時は、付属のシリコングリスをOリングに薄く塗ってから保管してください。Oリングは1年毎に交換されることをおすすめします。また、ご使用頻度により2、3年に1度のオーバーホールをおすすめします。

A 注意

- 洗い桶に浸している時には、絶対にハウジングの開閉はしないでください。
- 海で使用後に放置すると、細かいすき間に残った塩分が結晶となり、水に溶けなくなってしまいます。結晶化した塩分はOリングを押し上げ、浸水の原因となります。
- 使用後はハウジングの接合部などに水滴が残っています。ハウジングを開けた際にカメラ本体に水滴が垂れないようご注意ください。また、髪の毛やウエットスーツからの水滴落下にも気をつけください。
- 炎天下での直射日光による乾燥や、ドライヤーなどによる乾燥は、故障や変形、破損の原因となりますので絶対におやめください。
- ハウジングを直射日光の当たる場所に放置しないでください。また、真夏の車内など高温になる場所への放置、保管はおやめください。内部温度が上昇して防水機能に支障をきたすおそれがあります。
- シンナー、ベンジンなどの揮発性有機溶剤や化学洗剤でハウジングをクリーニングしないでください。